

令和2年度当初予算案

改革＋創造予算 新群馬創生始動予算 前例踏襲脱却予算



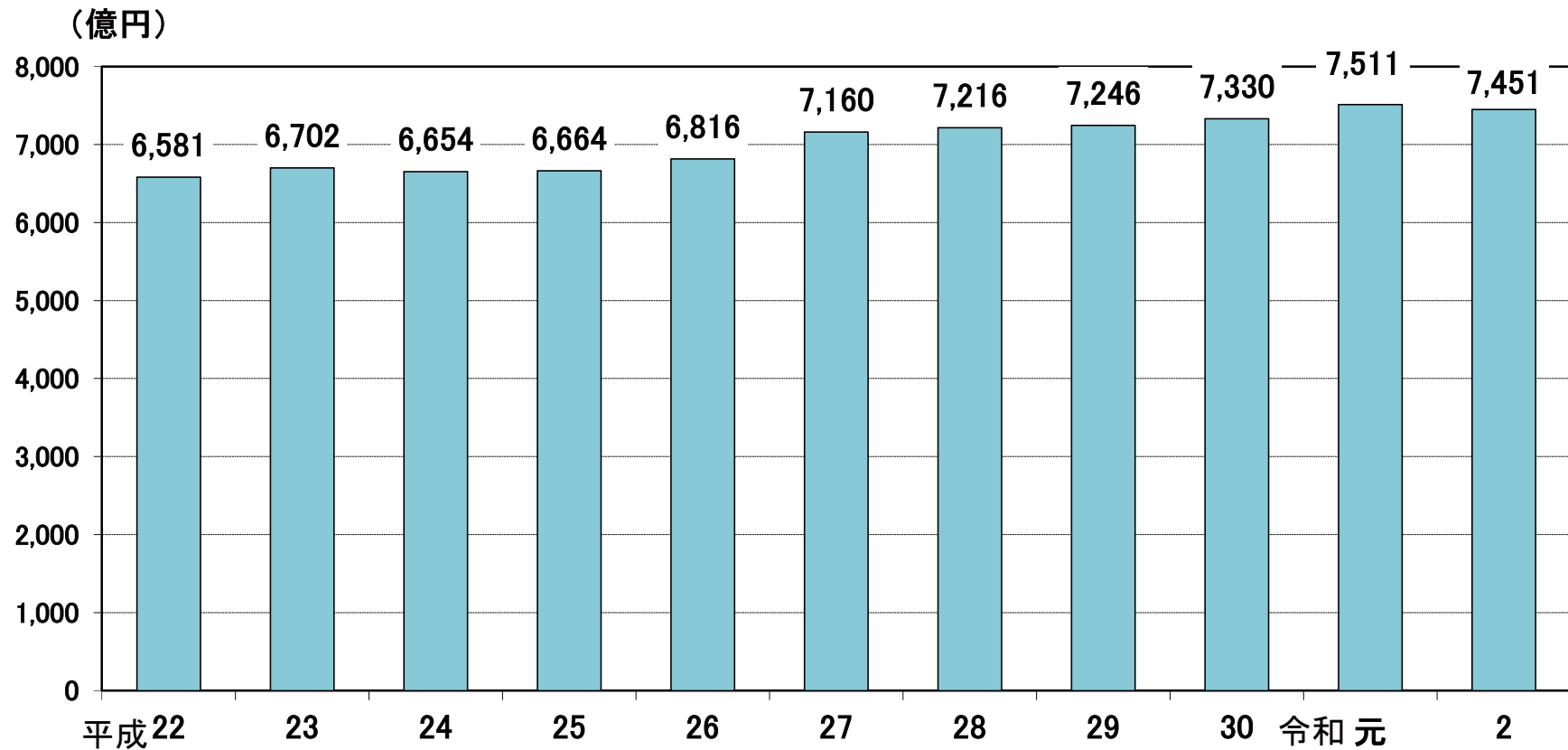
令和2年2月6日(木)

群馬県

予算規模

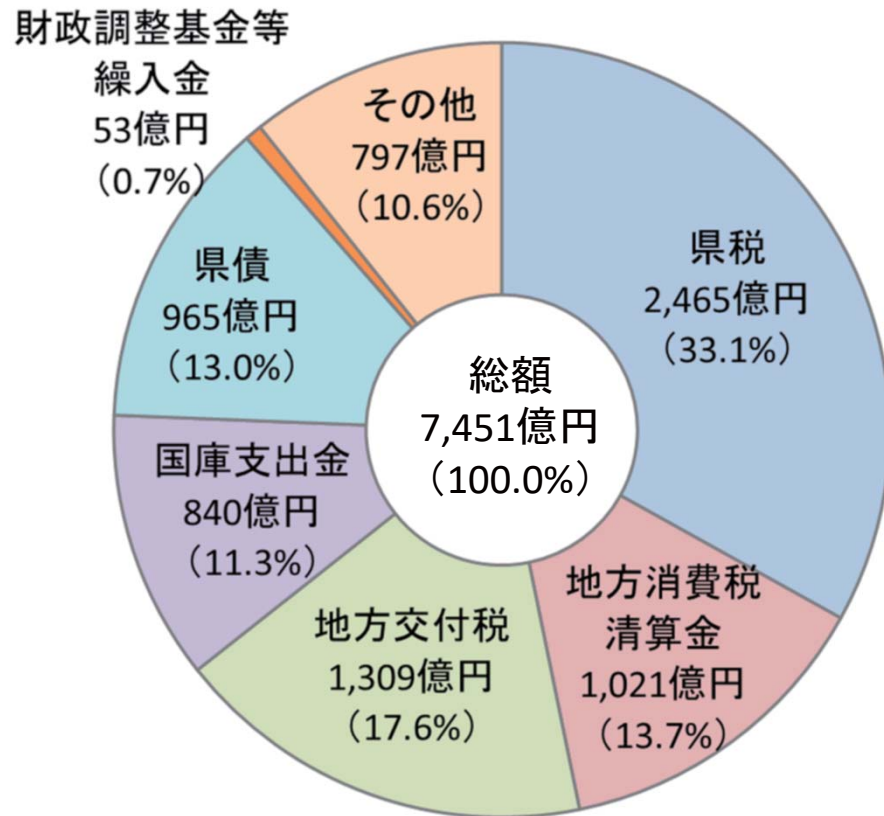
総額 7,451億2,800万円 ▲0.8%

- ・社会保障関係費の増加に加え、消費増税に伴い税関係交付金等が大きく増加する中でも、投資的経費を抑制したことなどにより、前年度に比べて▲60億円の減。



歳入の状況

- ・県税や地方消費税清算金は、消費税率の引上げなどにより増加。
- ・投資的経費の抑制により、県債は大きく減少(▲160億円)。
- ・地方交付税の増加や事業見直しなどにより財源不足が改善したことから、財源対策としての基金繰入金は減少(▲61億円)。



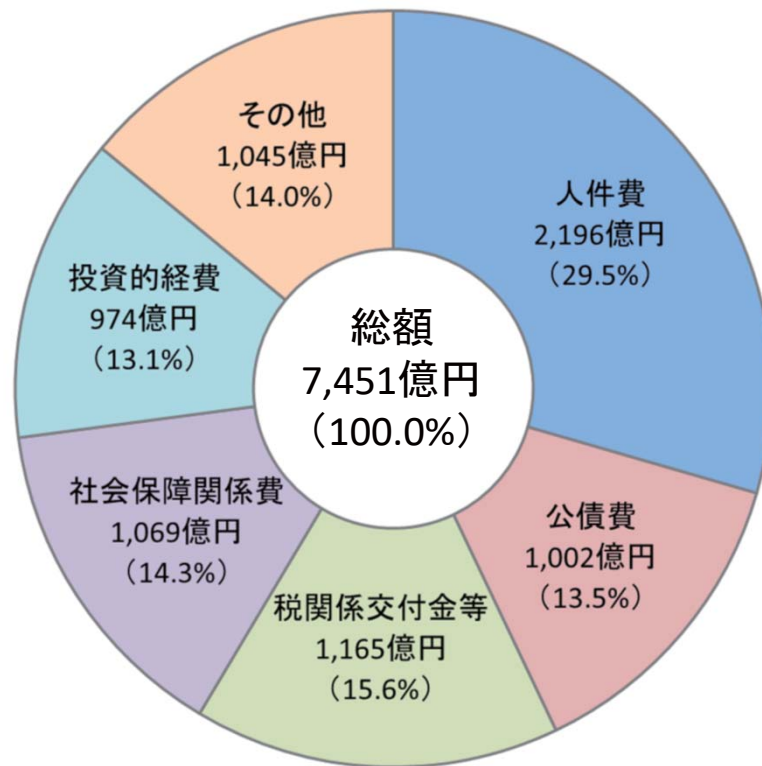
(単位:億円)

区分	R2	R元	対前年比較	
			増減額	増減比率
県税	2,465	2,450	15	0.6%
地方消費税清算金	1,021	755	266	35.2%
地方交付税	1,309	1,247	62	5.0%
国庫支出金	840	855	▲15	▲1.7%
県債	965	1,125	▲160	▲14.2%
臨時財政対策債	380	416	▲36	▲8.7%
減収補てん債	40		40	皆増
退職手当債	30	19	11	57.9%
行政改革推進債	40	60	▲20	▲33.3%
その他の県債	475	630	▲155	▲24.5%
基金繰入金(財源対策)	53	114	▲61	▲53.5%
財政調整基金・減債基金	26	89	▲63	▲70.8%
地域振興基金	11	15	▲4	▲26.7%
地域福祉基金	16	10	6	60.0%
その他	797	965	▲168	▲17.4%
合計	7,451	7,511	▲60	▲0.8%

※グラフ、表の数値は、表示単位未満の四捨五入の関係で、合計と一致しない場合があります。

歳出の状況

- ・消費税率の引上げにより、税関係交付金等は大きく増加。
- ・社会保障関係費も、少子高齢化を反映し、引き続き増加。
- ・投資的経費は、防災減災事業など真に必要な予算は確保する一方、Gメッセ群馬やハッ場ダムが完成したこと、全体として公共事業を抑制したことから減少(▲296億円)。



区分	R2	R元	対前年比較	
			増減額	増減比率
人件費	2,196	2,201	▲ 5	▲0.2%
公債費	1,002	1,020	▲ 18	▲1.7%
税関係交付金等	1,165	891	274	30.8%
社会保障関係費	1,069	1,034	34	3.3%
投資的経費	974	1,270	▲ 296	▲23.3%
県有施設長寿命化	35	24	11	45.8%
公共事業	806	874	▲ 68	▲7.7%
補助公共	306	287	20	7.0%
単独公共	500	587	▲ 88	▲14.9%
交付金事業	294	357	▲ 64	▲17.8%
純単独事業	206	230	▲ 24	▲10.5%
コンベンション施設整備		169	▲ 169	皆減
その他の投資的経費	133	203	▲ 70	▲34.5%
その他	1,045	1,095	▲ 50	▲4.6%
合計	7,451	7,511	▲ 60	▲0.8%

※グラフ、表の数値は、表示単位未満の四捨五入の関係で、合計と一致しない場合があります。

重点施策

- ・県民の安全・安心を支えるための取組は、充実・継続
- ・本県に富を生み出すための新たな取組も行う
- ・思い切った事業見直し等により、財政の健全性を確保

県民の幸福度の向上

1. 災害に強く、安心な暮らしと安定した経済活動の実現

- ・ハード・ソフト両面での防災・減災対策の集中的な実施
- ・医師確保に向けた取組
- ・健康寿命の延伸
- ・児童虐待への対応強化
- ・「ぐんま5つのゼロ宣言」の実現に向けた環境問題への取組

2. 群馬県の魅力とブランド、ライフスタイルの構築と発信

- ・トップ外交の展開
- ・観光誘客・インバウンド推進
- ・ぐんまちゃんのブランド力強化
- ・フィルムコミッション活動支援
- ・群馬暮らしブランド化推進
- ・多文化共生・共創『群馬モデル』

3. 共創とデータ活用による新しいリソースの創出

- ・地域課題解決ラボラトリー
- ・オープンイノベーション推進
- ・G-アナライズ & PR
- ・新産業創出に向けたフォーラムの開催
- ・動画・放送スタジオを活用した情報発信
- ・県庁舎32階フロア整備(R元.2月補正予算)
- ・Gメッセを活用したコンベンション産業の振興

4. 財政の健全性の確保

- ・事業の見直し
- ・R3年度以降の予算に向けた事業見直しの継続的な検討
- ・歳入の確保
- ・基金残高の確保・県債残高の縮減

重点施策1 災害に強く、安心な暮らしと安定した経済活動の実現

ハード・ソフト両面での防災・減災対策の集中的な実施

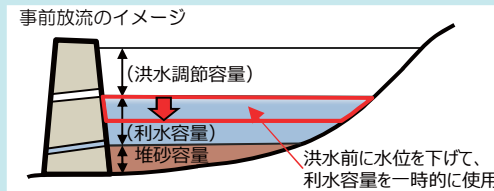
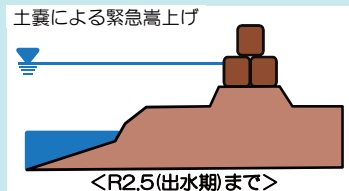
343億64百万円

頻発・激甚化する水害等の気象災害といった新たな脅威にしっかりと対応するため、「ハード」と「ソフト」が一体となった防災・減災対策を更に加速。

「災害レジリエンスNo.1」の実現に向け、今後、県土整備プランの見直しを行い、令和2年度からの5か年で集中的、緊急的に防災・減災対策を推進。

【ハード対策】

- **水害対策** 6,333,006千円
 - ・河川改修: 出水期までに応急対応を含めた堤防の嵩上げを完了
 - ・堤防強化: 浸透による堤防破壊を防ぐための漏水対策を完了
 - ・ダム調節能力の増強: 利水容量を洪水調節に活用する
ダム事前放流体制の構築(県営6ダム)



- **土砂災害・道路防災・農地防災対策** 27,159,969千円
 - ・土石流やがけ崩れ等による被害を軽減
 - ・災害時にも機能する道路ネットワークの構築
 - ・ため池の決壊による下流域への被害の軽減

【ソフト対策】

- **水害対策** 741,393千円
 - ・水位周知河川の追加指定
 - ・リアルタイム水害リスク情報システムの開発
 - ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援



- **土砂災害・農地防災対策** 130,000千円
 - ・防災マップの作成支援
 - ・要配慮者利用施設の避難支援
 - ・ため池のハザードマップ作成支援



- **災害対策本部実施室整備基本構想策定** 3,826千円
 - ・県内外で大規模な災害が発生した際に関係機関が集結し災害対応を行う「災害対策本部実施室」の整備に向けて、基本構想を策定

医師確保に向けた取組

449,242千円

ドクターズカムホームプロジェクト(DCHP)を推進し、若手医師の確保や医師の偏在解消に強力に取り組む。

- 研修医確保・医師の県内定着と偏在解消 372,956千円
 - ・医学生修学資金貸与 49,800千円
対象者を「県外出身者」まで拡充、若手医師の定着を促進
 - ・ぐんまレジデントサポート推進 23,918千円
県外医学部生に対する病院見学費用の助成 ほか
- 診療科偏在対策 61,286千円
 - ・医師確保修学研修資金貸与 ほか
- 男女を問わず医師が働き続けやすい環境づくり 15,000千円
 - ・保育サポーターバンクの運営支援



ドクターズカムホームプロジェクトでの若手医師等との座談会

健康寿命の延伸

6,624千円

健康寿命の延伸に向け、健康ポイント導入の検討や「元気に動こう・歩こうプロジェクト」の普及などに取り組む。

- 健康ポイント制度導入に向けた検討会議 303千円
- 元気に動こう・歩こうプロジェクト 1,288千円
 - ・実践リーダーの育成、フォーラムの開催 ほか

児童虐待への対応強化

90,437千円

児童虐待防止条例の制定をはじめとした各種対策の充実により、虐待対応への取組を強化。

- 東部児童相談所一時保護所新設等の体制整備 31,424千円
 - ・令和2年4月1日開設予定の東部児童相談所一時保護所の運営
- 子どもシェルターを活用した被虐待児等への支援 10,483千円
 - ・子どもシェルターにおいて弁護士が被虐待児等を法的に支援 ほか



建設中の東部児童相談所一時保護所

「ぐんま5つのゼロ宣言」の実現に向けた環境問題への取組

災害に強く、持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」を着実に推進します。

【主な関連事業】

- ハード・ソフト両面での防災・減災対策の集中的な実施（再掲）
- 「ぐんま再生可能エネルギープロジェクト」の推進 223,258千円
 - ・住宅用太陽光発電整備等導入資金融資
 - ・県有施設への太陽光発電・蓄電池整備
 - ・地域マイクログリッドの構築検証
 - ・水素利活用コンソーシアム など
- 水力発電所の整備等 252,230千円（電気事業会計）
 - ・水力発電所建設、既設発電所のリニューアル
 - ・P2Gシステムの実証に向けた可能性調査
- プラスチックごみ・食品ロス削減に係る普及啓発 3,947千円
 - ・ぐんま3R推進会議、「MOTTAINAI」運動 など
- フードバンク・こども食堂の支援 4,255千円



温室効果ガス「ゼロ宣言」自治体マップに群馬県のシールを貼る
山本知事と小泉環境相

「ぐんま5つのゼロ宣言」(2050(ニーマルゴーゼロ)宣言)

宣言1 自然災害による死者「ゼロ」
宣言2 温室効果ガス排出量「ゼロ」
宣言3 災害時の停電「ゼロ」

宣言4 プラスチックごみ「ゼロ」
宣言5 食品ロス「ゼロ」

重点施策2 群馬県の魅力とブランド、 ライフスタイルの構築と発信

トップ外交の展開

79,958千円

本県独自の自治体外交を展開し、観光誘客推進や農産物の販路開拓、海外進出企業の支援、文化交流の促進に取り組む。

● 群馬交響楽団海外公演支援(ベトナム) 69,599千円

・「経済交流、人材育成・活用」の覚書を締結しているベトナムで、群響による海外公演等を実施し楽団や本県の魅力を発信

● 県産農畜産物等輸出(香港) 10,359千円

・放射性物質の影響を理由とする規制が緩和された(平成30年7月)香港で、中国への農畜産物輸出解禁も視野に、知事によるトップセールスを行う。

観光誘客・インバウンド推進

154,268千円

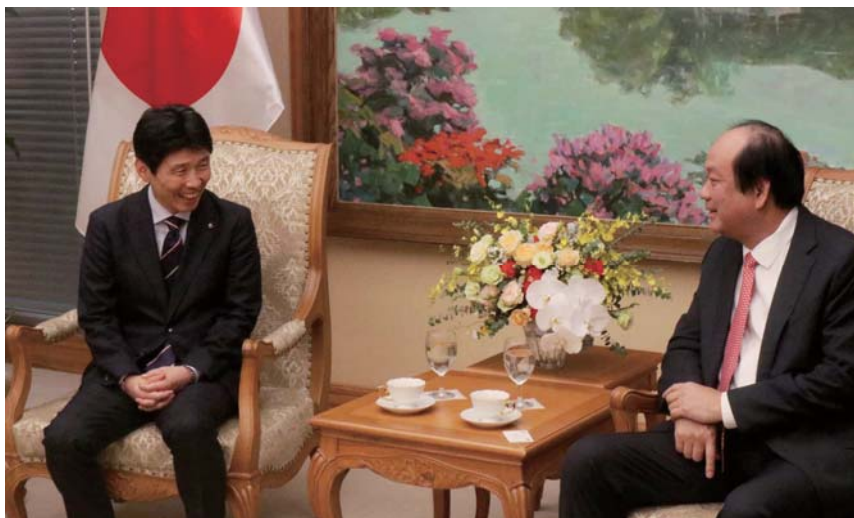
FIT(個人旅行者)に対応するため、ウェイボーとの連携などを活かし、デジタル媒体を用いたプロモーションやITを活用した受入環境整備。

● 海外セールスプロモーション 43,894千円

・デジタル媒体を活用した連携事業 23,100千円
・海外現地プロモーション 14,294千円 ほか

● 受入環境整備 14,897千円

・インバウンド対応に積極的な観光施設を登録し、更なる誘客につながるサポート及びPR ほか



ベトナムのズン官房長官との会談



中国インフルエンサー招請

ぐんまちゃんのブランド力強化

125,180千円

「ぐんまちゃん」を世界中で知名度の高い「群馬県のシンボル」に成長させる。

知名度の高さを活用し、世界経済の活力を取り込み、県民の郷土愛の醸成を図る。

- アニメーション動画の製作・配信 83,433千円
・ぐんまちゃんを世界に売り込むプロモーションツールとして、アニメーション動画を製作し、動画配信サイト等で配信
- 着ぐるみによるイメージアップ・お誕生日会開催 23,579千円
・着ぐるみ出動(SNS発信含む)、ぐんまちゃんお誕生日会開催
- 国内外のライセンス管理(商標権・利用許諾)ほか 18,168千円



ゆるキャラグランプリ 2019

フィルムコミッション活動支援

6,000千円

観光誘客・地域活性化のための戦略的施策として、映像作品撮影支援を強力に推進。

- 撮影支援体制の整備 3,055千円
・映像制作会社に対する撮影支援や積極的な営業活動を行う体制を整備
- 情報発信力の強化 1,914千円
・専用サイトを構築し、県内の撮影適地、ロケ地マップ等を発信
- 動画・放送スタジオを活用した映像コンテンツPR 1,031千円
・監督などの映像関係者を招き、作品を通じて県の魅力を発信

群馬暮らしブランド化推進

53,311千円

首都圏等から本県への移住を促進するため、情報発信などを大幅強化。

- 高発信力人材による情報発信 1,484千円
・SNS、YouTube等で発信力の高い人材が群馬県に一定期間滞在し、リアルな体験を発信
- オンライン移住相談会開催 848千円
・参加者の利便性を高めるため、Web上で移住相談会を開催
- ぐんま暮らし支援センター運営(有楽町) 46,217千円
ほか

多文化共生・共創『群馬モデル』

外国人材の円滑かつ適正な受入れのために

外国人材の円滑かつ適正な受入れのため、ベトナムでの合同企業説明会や、企業向け相談会等を開催。

- 外国人ヒューマンリソース受入相談会 1,900千円
・外国人雇用全般(在留資格、労務管理、経営面の助言等)について企業からの相談に対応
- 外国人ヒューマンリソース発掘支援 4,631千円
・ベトナムでの合同企業説明会
- 外国人留学生への奨学金支給支援 6,800千円
・介護事業者の外国人留学生向け奨学金(学費・居住費)支給経費を支援



外国人材向け合同企業説明会

新たな「多文化共生県ぐんま」を実現するために

新たな「多文化共生県ぐんま」を実現するため、外国人の教育や交流に係る取組を実施。

- 「ぐんまで日本語！」プロジェクト 3,621千円
・日本語教室の指導者養成・スキルアップ研修、日本語教室充実に係る市町村支援
- ぐんま国際交流フェスティバル 2,000千円
・外国人と日本人、また、外国人同士が交流するフェスティバルを市町村等と連携して開催
- 外国人児童生徒等教育充実総合対策 131,858千円
・外国人児童生徒等が将来、地域の一員として活躍できるよう、高校教育を見据え、義務教育段階の教育を充実させる

『共創』により、日本人・外国人県民がともに輝くために

『共創』により、日本人・外国人県民がともに輝くため、外国人の県内定着や起業を支援。

- 外国人留学生等の定着促進 1,215千円
・外国人留学生やALT等の県内就職促進(合同企業説明会等)
- イノベーション・ハブ 8,495千円
・県庁32階に整備する「イノベーション・ハブ」において、外国人県民の起業についてのセミナーを開催

重点施策3 共創とデータ活用による新しいリソースの創出

地域課題を民間との連携により解決し、群馬のコンテンツを世界に発信する核とするとともに、民間資金を活用することでリソースを生み出していく。

地域課題解決ラボラトリー

36,650千円

ICT等による地域課題解決に向け、民間の知恵・資金を活用して実証事業を実施。

● 「地域課題解決プロセス」の構築 600千円

- ・行政からの課題提案、民間企業からのICT等を活用した課題解決提案の場としてセミナー・個別マッチング相談会を開催

● 「資金調達プロセス」の構築 1,050千円

- ・複数のプラットフォーム企業とクラウドファンディング型ふるさと納税等に関する協定を締結
- ・協定は他事業も対象とし、県全体として、ふるさと納税及び企業版ふるさと納税の増加を図る

● マッチング事業の実施 35,000千円

- ・「地域課題解決プロセス」でマッチングした事業について、「資金調達プロセス」を活用しながら、事業化に向けた実証事業を実施

オープンイノベーション推進

13,411千円

県・市町村、ICT・ソリューション企業、クラウドファンディング事業者等の多様な主体によりイノベーションを創発。

● イノベーション・ハブ 8,495千円(再掲)

- ・多様な主体が集い、交流することで新たなイノベーションを創発する拠点「イノベーション・ハブ」の運営

● ぐんまオープンイノベーションスクラム(GOIS) 2,916千円

- ・企業規模・業種・業態の枠を超えたオープンイノベーションの機会を提供

● スタートアップ支援 2,000千円

- ・スタートアップ企業を継続的に県内から生み出すためのエコシステム形成(スタートアップ企業の成長可能な土壌づくり)のための検討会・セミナーの実施

G-アナライズ&PR

22,155千円

「健康」をキーワードに県産農畜産物の成分分析を行い、その成果を消費者に発信することで販売促進に繋げる。さらに、消費者の反応を生産現場に生かすというサイクルを作る。

- 分析・販売促進と生産対策 17,617千円
 - ・県試験研究機関等における県産農畜産物の成分分析
 - ・分析成果に基づく消費者への魅力発信
 - ・分析成果や消費者の反応を農畜産物の生産に生かす取組
- 分析機器の整備 4,538千円
 - ・農業技術センターに食感等を測定する機器を設置



群馬県特産イチゴ「やよいひめ」の分析

新産業創出に向けたフォーラムの開催

最先端の知見を有する経済人や有識者が群馬に集い、地域課題の解決策等の具体的提案を世界に向けて発信。

- 湯けむり創造フォーラム 10,000千円
 - ・草津町を舞台に著名な経済人・有識者によるパネルディスカッションや最先端技術の展示体験イベント、「酒」や「食」など本県の様々な産業を発信
 - ・多くの人が集まることで、新たな産業の形を模索する一大集会にすることを旨とする

動画・放送スタジオを活用した情報発信 5,152千円

動画・放送スタジオを利用し、県政情報や県の魅力を伝える動画を職員がローコスト&スピーディに制作・配信し、インターネットを中心とした情報発信を大幅に強化。

- ・編集ソフト等使用料(編集ソフト・音源素材)
- ・機材等管理、通信費
- ・出演者経費
- ・職員研修費(映像制作セミナー、話し方研修) など

リソース創造の拠点

県庁舎32階フロア整備

206,483千円
(R元.2月補正予算)

Trip Advisor Excellence認証を受けた県庁舎32階を、多様な人々が常に集まり、交流することで、次々に新しいリソースが生まれ、発信される空間(イノベーションエリア)に整備。

- 県庁舎32階フロア環境整備 131,483千円
・賑わい空間の創出のため、壁装飾、天井改修、照明改修を実施
- イノベーション・ハブ整備 20,000千円
・イノベーション・ハブの機能に必要な備品・什器等を整備。
- カフェスペース整備 55,000千円
・カフェ運営に必要な給排水、厨房設備等を整備

- ※ 国の地方創生拠点整備交付金(補助率:1/2)を活用。残り1/2の県負担にも、財源的に有利な補正予算債を活用。
- ※ ここを舞台に、地域課題解決ラボラトリーやオープンイノベーション推進等を、企業版ふるさと納税等の民間資金を最大限に活用して実施。



イノベーションエリア イメージ図

Gメッセを活用したコンベンション産業の振興 103,499千円

「Gメッセ群馬」のオープンを県内外に周知するとともに、施設を核としてコンベンション産業の振興に取り組む。

- Gメッセ群馬開所イベント<4月18日、19日> 45,512千円
・開所式典、Gメッセ誕生祭(ステージイベント、飲食・物産、eスポーツ大会等)
- Gメッセ群馬利活用推進 20,886千円
・各種媒体を活用した施設の魅力発信等
- コンベンションを通じた県内産業の振興 37,101千円
・主催者と事業者とのマッチング支援
・コンベンションの誘致・開催支援、県内周遊の促進 ほか



Gメッセ イメージ図

重点施策4 財政の健全性の確保

事業の見直し

▲13.6億円

財政の健全性の確保を図るため、時代の変化や費用対効果、他県との比較や役割分担等の観点から検討を行い、計242件の見直しを実施。

<主な見直し事業の例>

- ぐんまの木で家づくり支援 ▲166,710千円
・対象を県産材の使用割合が90%以上のものに限定したうえで、R2年度限り継続
- 老人福祉施設整備費補助(大規模修繕) ▲60,000千円
・対象を施設の長寿命化に重点化
- 情報発信手法の見直し(動画・放送スタジオの活用等) ▲73,419千円
・教育放送を廃止(▲63,154千円)するなど、情報発信手法の見直しを実施
・動画・放送スタジオの活用により、より低コストかつ効率的・効果的な情報発信を実施
- 千客万来支援 ▲60,000千円
・ICT活用を誘導するため、補助対象からアナログ媒体(看板・パンフレット等)を除外し、重点化
- 東毛広域幹線道路BRT整備
・事業の効果や採算性等について一度立ち止まって検討するため、予算計上を見送り

R3年度以降の予算に向けた事業見直しの継続的な検討

R2年度から見直しを行うもののほか、単に廃止・縮小するだけでなく、条例・制度の改正等の各種調整が必要なものなど、R2年度からただちに見直すことが難しいものについては、R3年度以降の予算に向けて、今後も引き続き検討・調整。

歳入の確保

ネーミングライツの導入拡大、ふるさと納税の積極的な活用など、自主財源の確保に努める。

●ネーミングライツの導入拡大 39,481千円

(R元当初 36,577千円)

令和2年度から、既存の6施設に加え、新たに敷島公園水泳場にネーミングライツを導入。(愛称:関水電業敷島プール)

更に、以下の14施設について、新たに導入を検討。

- | | |
|-----------------|--------------|
| ①群馬県庁県民駐車場 | ⑧観音山ファミリーパーク |
| ②ふれあいスポーツプラザ | 自然の森、バーベキュー場 |
| ③ゆうあいピック記念温水プール | ⑨歩道橋(7橋) |
| ④馬事公苑 | ⑩ぐんま昆虫の森 |
| ⑤日本絹の里 | ⑪ぐんま天文台 |
| ⑥群馬の森 | ⑫県立図書館 |
| ⑦金山総合公園 | ⑬生涯学習センター |
| | ⑭青少年会館 |

●ふるさと納税の積極的な活用 64,000千円

(R元当初 11,150千円)

新たにクラウドファンディング型ふるさと納税を実施するなど、より積極的にふるさと納税を募集。

<クラウドファンディングを実施する事業の例>

- ・ぐんまちゃんのブランド化 ・群馬交響楽団海外公演支援



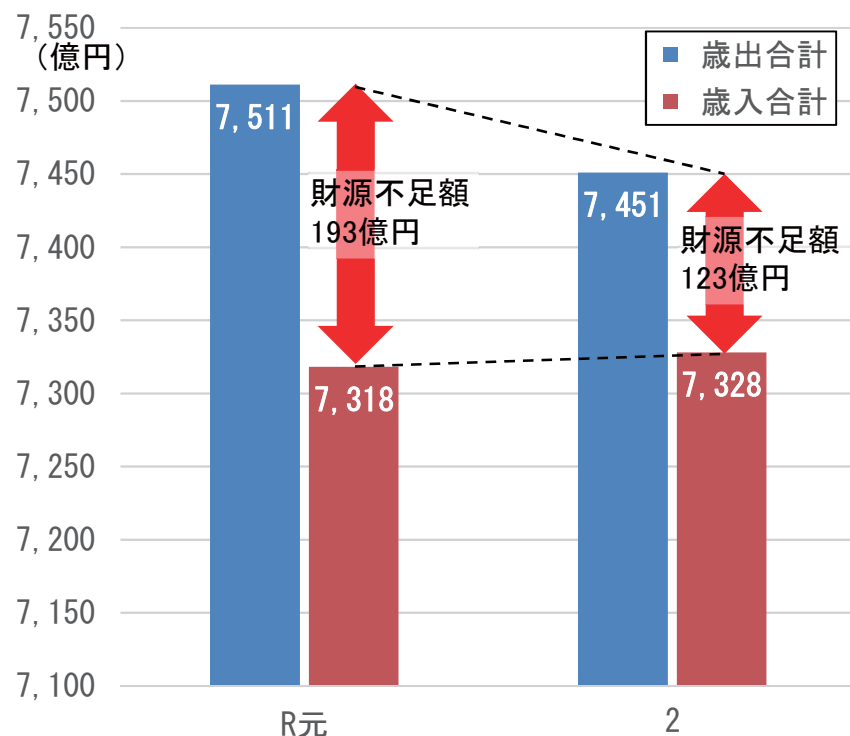
県有施設のあり方見直し

費用対効果等の観点から、今後とも県有施設として維持していくべきか、他の効果的な活用方法はないかなど、当面以下の10施設についてあり方の検討を進める。

- | | | |
|----------------------|--------------|---------------------|
| ①群馬県民会館 | ⑤県立図書館 | ⑧群馬県憩の森・森林学習センター |
| ②群馬県総合スポーツセンター伊香保リンク | ⑥県立妙義青少年自然の家 | ⑨緑化センター・緑化センター附属見本園 |
| ③ぐんまフラワーパーク | ⑦ぐんま総合情報センター | ⑩群馬県ライフル射撃場 |
| ④敷島公園 | (ぐんまちゃん家) | |

財源不足への対応(財源対策)

事業の見直しのほか、地方交付税等の歳入の増加が見込まれることもあり、財源不足額は193億円から123億円に大きく改善。



(単位: 億円)

財源対策	R2	R元	増減
基金の取崩し	53	114	▲61
うち財政調整基金	26	89	▲63
うち地域福祉基金	16	10	+6
うち地域振興基金	11	15	▲4
財源対策的な起債	70	79	▲9
うち退職手当債	30	19	+11
うち行政改革推進債	40	60	▲20
計	123	193	▲70

基金残高の確保

財政調整基金の残高を、52億円確保(R元当初:15億円)。(→P26)
あわせて、令和10年の国民スポーツ大会の本県開催に備えた基金の積立ても開始(5億円)。

県債残高の縮減

県債(臨時財政対策債や減収補てん債を除く)について、発行額は▲164億円、残高は▲4億円、それぞれ削減。(→P21、22)

個々の組織、職員の能力・発想を活かす

令和元年9月に設置した「自我作古チーム」の提案や、若手職員を中心とした「政策プレゼン」のアイデアを新規事業に反映。



○自我作古チーム提案事業

- ・ICTを活用した行政の効率化
- ・高発信力人材の移住促進、オンライン移住相談窓口
- ・農業と観光の連携
- ・スタートアップ支援
- ・インバウンド対策
- ・中高生の自転車安全対策
- ・公共施設・公共空間の新たな活用
- ・子どもがスポーツに親しむ環境の整備(校庭の芝生化)

○政策プレゼン関連事業

- ・フィルムコミッション活動支援
- ・元気高齢者の支援(男性高齢者の活躍支援)
- ・食品ロス削減対策
- ・グリーンツーリズム(農泊)推進
- ・官民連携まちづくり

新群馬 創造のため県庁組織を大幅再編

知事戦略部 政策立案、情報発信、トップセールス

戦略企画課	データによる政策立案、重要政策の司令塔
メディアプロモーション課	県の魅力を国内外に戦略的に発信
デジタルトランスフォーメーション課	デジタル技術で産業・県民生活を変革
地域外交課	海外向けトップセールスを展開

地域創生部 「ぐんま暮らし」ブランド化、文化・スポーツで地域創生

ぐんま暮らし・外国人活躍推進課	移住したくなる地域づくり、多文化共生・共創「群馬モデル」推進
-----------------	--------------------------------

生活こども部 安全で質の高い県民生活・子育て環境

私学・子育て支援課	こども・若者の育成環境、学び支援を一本化
-----------	----------------------

産業経済部に 戦略セールス局 戦略的なセールスで経済活性化

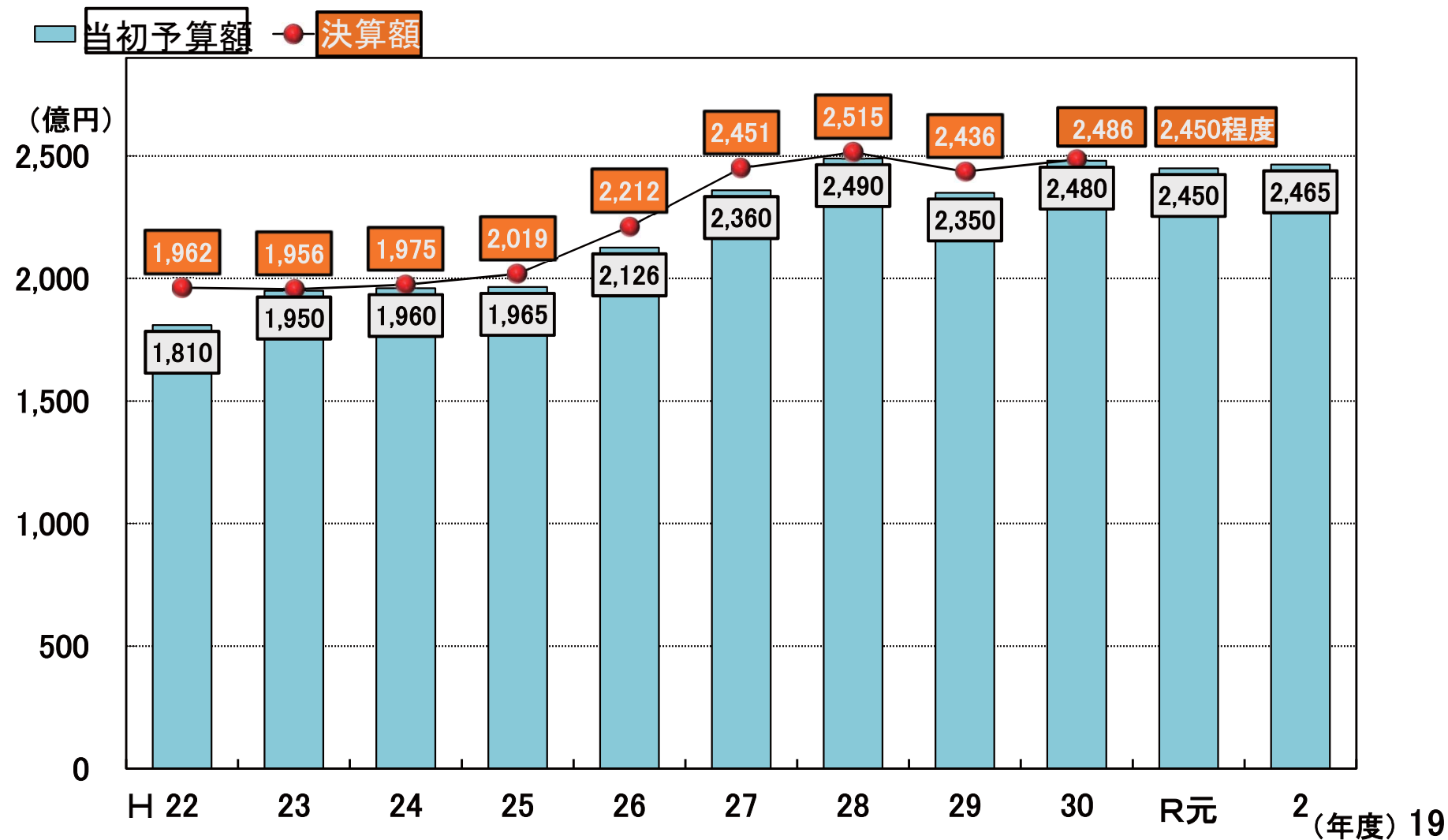
eスポーツ・新コンテンツ創出課	eスポーツなど新コンテンツを発掘・育成
-----------------	---------------------

環境部門を強化 2050年に向け「ぐんま5つのゼロ宣言」を実現 (「環境森林部」に改称、「森林局」を設置)

気候変動対策課	「ぐんま5つのゼロ宣言」、気候変動対策を強力に推進
---------	---------------------------

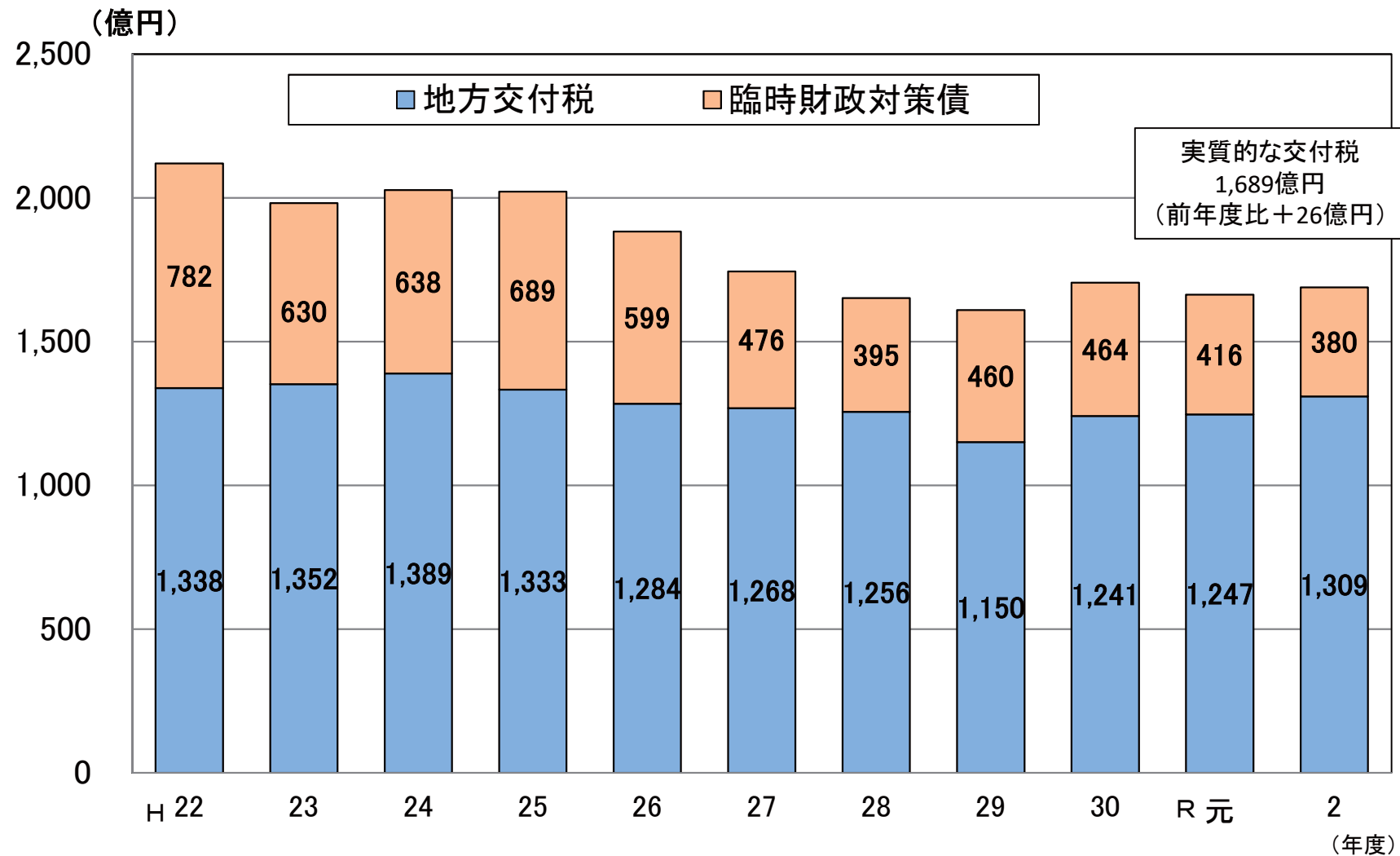
県税の推移

・消費税率の引上げにより地方消費税が大きく増加する一方で、企業業績の落ち込みによる法人関係税の減少が見込まれており、増加額は+15億円。



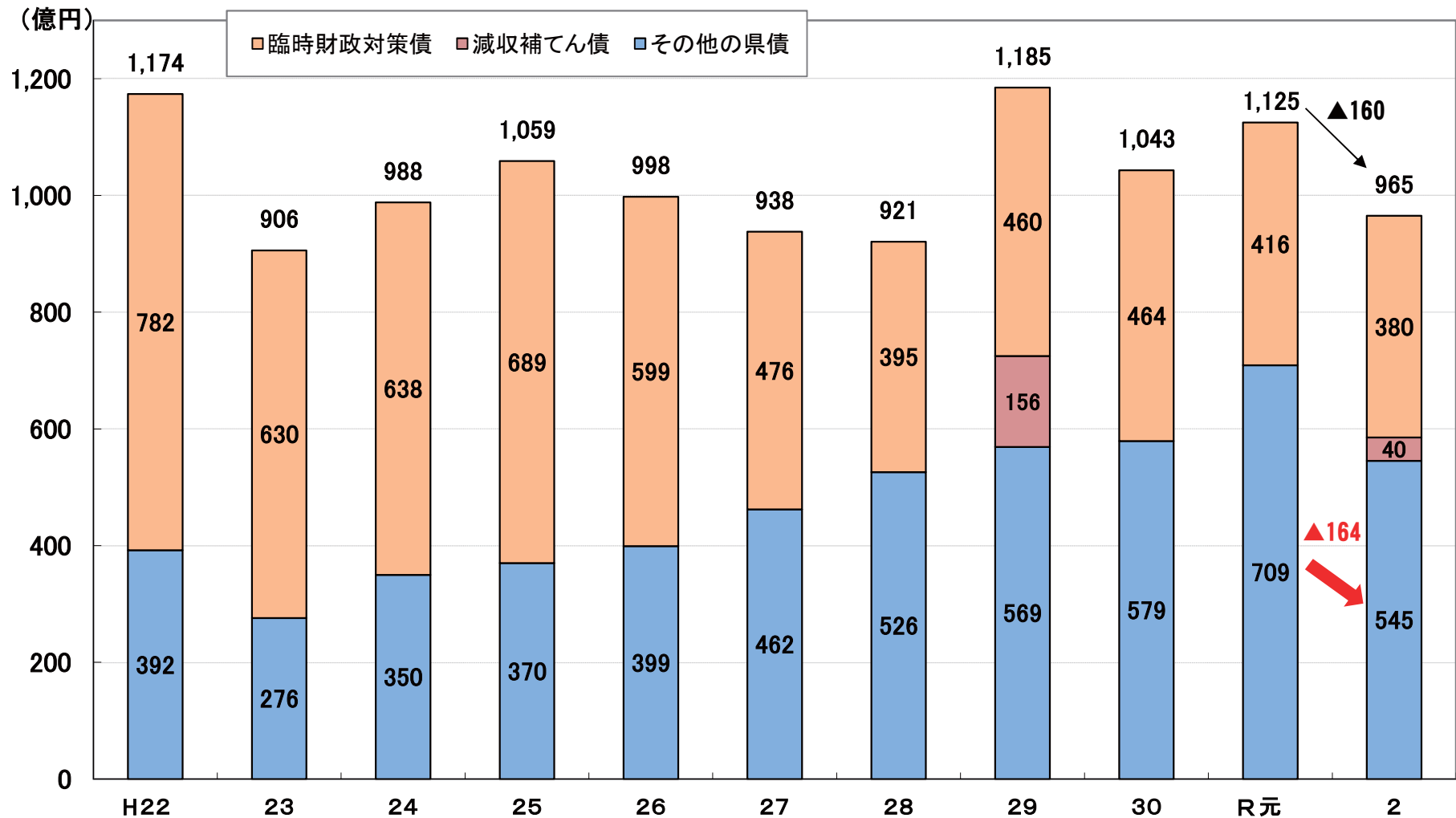
地方交付税等の推移

・国の地方財政対策を踏まえると、地方交付税と臨時財政対策債をあわせた実質的な交付税は、前年度に比べて+26億円の増。(地方交付税+62億円、臨時財政対策債▲36億円)



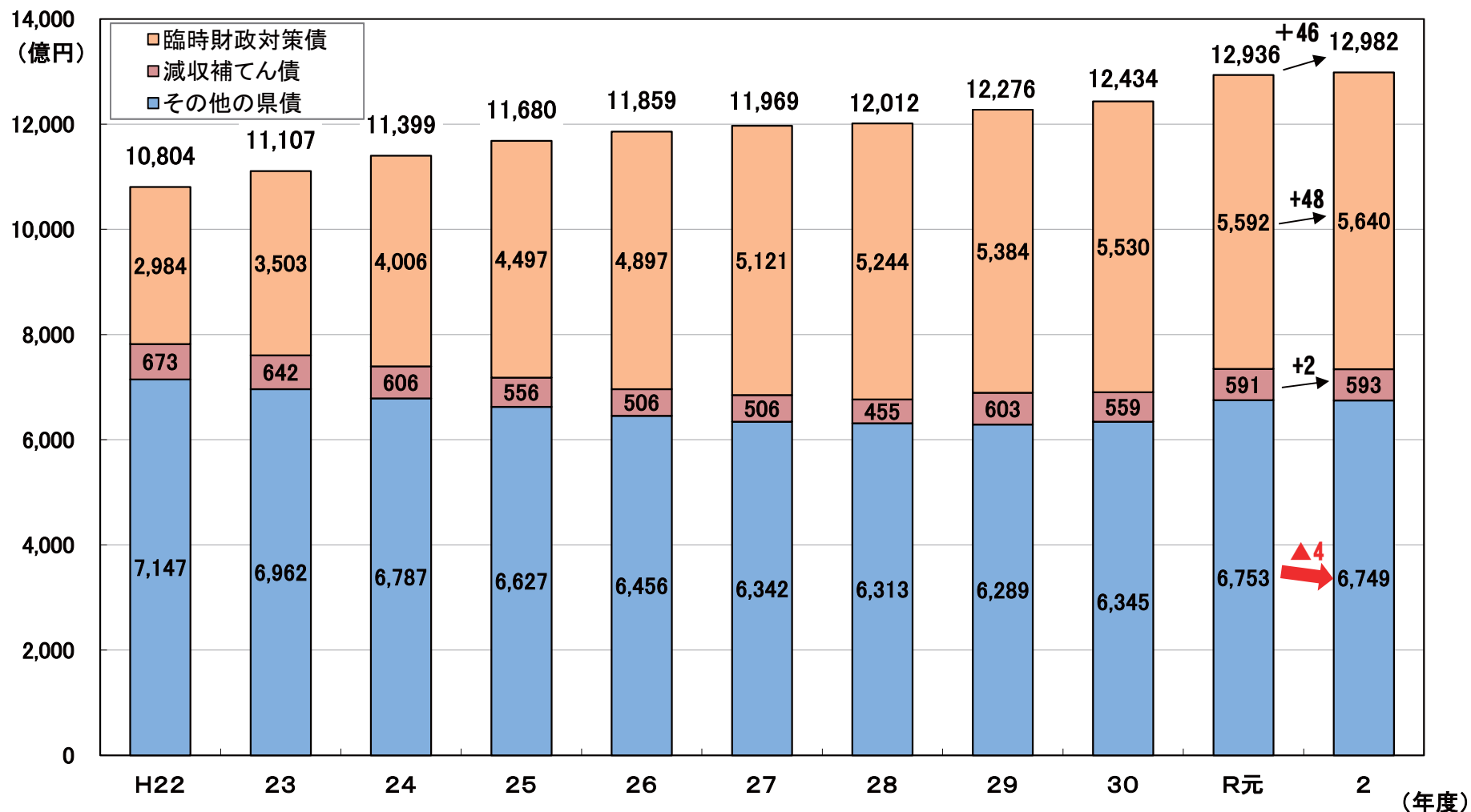
県債予算額(当初予算)の推移

- ・投資的経費の減により、その他の県債が▲164億円。
- ・地方交付税の算定上、法人関係税の減に見合った地方交付税の増額が見込めないことから、減収補てん債を計上(40億円)。



県債残高の推移

・投資的経費の減により、臨時財政対策債と減収補てん債を除いた県債残高(見込)は4億円の減少。

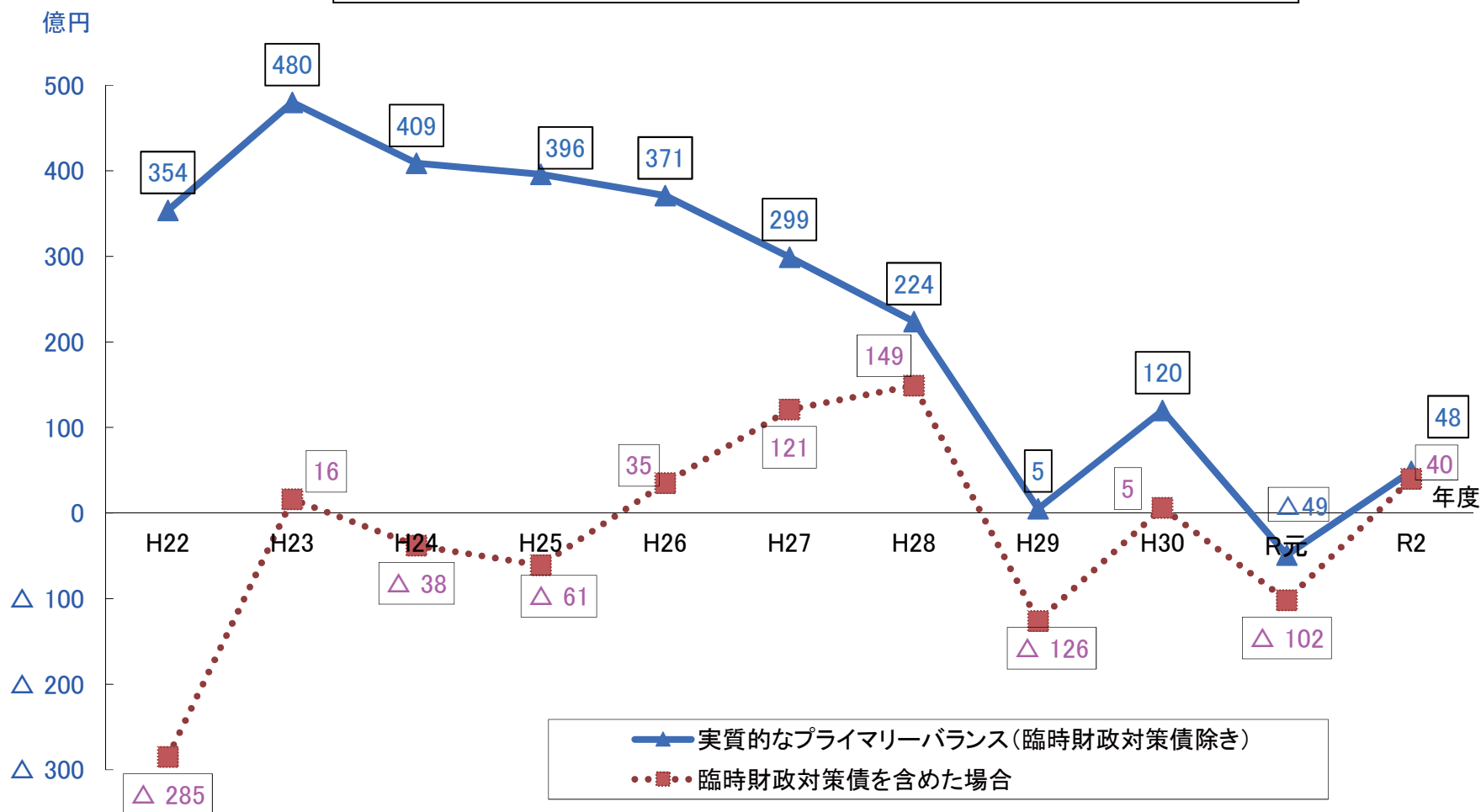


※H30年度までは決算、R元年度は2月補正後、R2年度は当初予算ベース

プライマリーバランス(当初予算)の推移

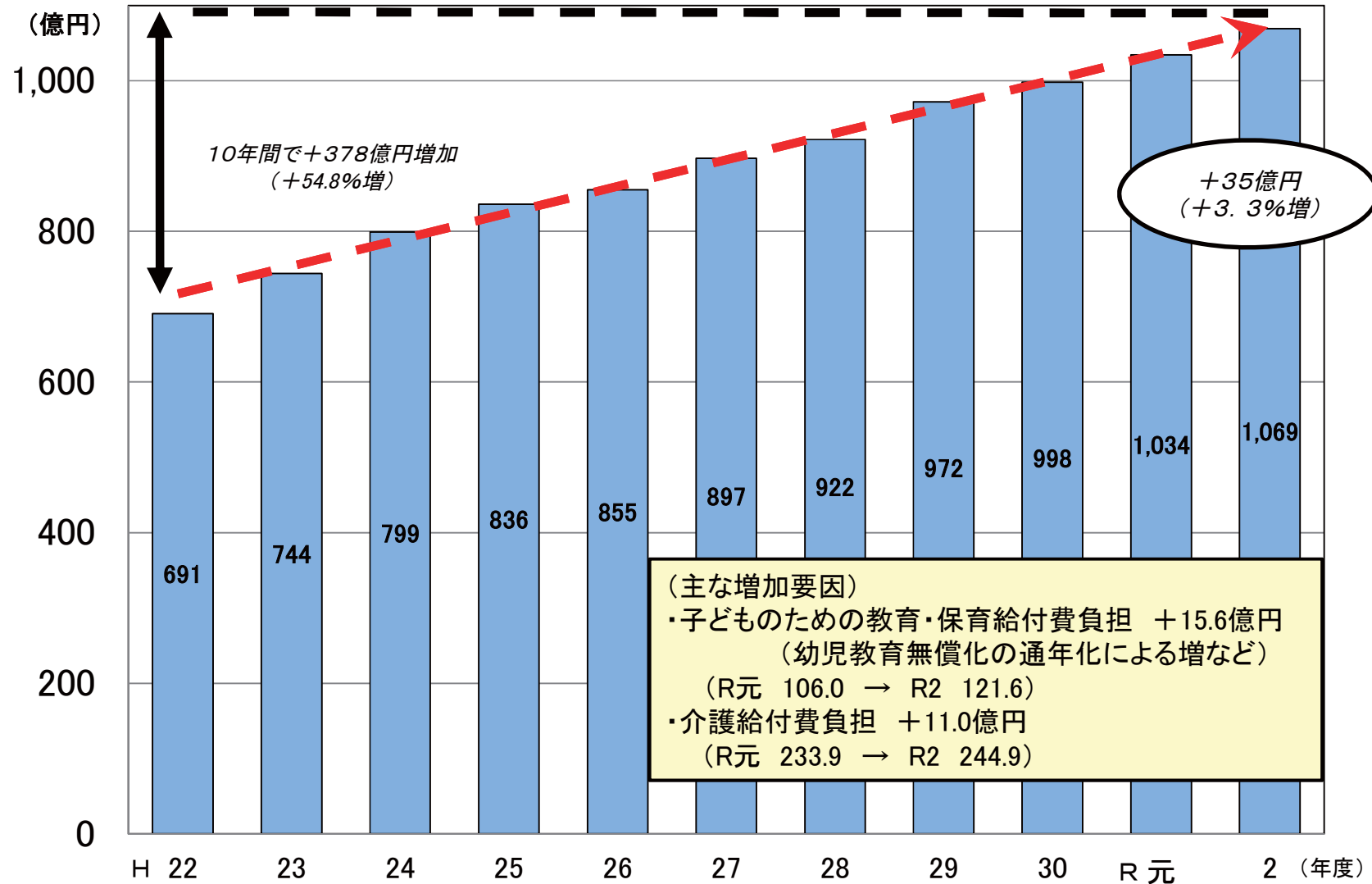
・県債発行額の減少により、実質的なプライマリーバランスは黒字を確保。

(歳入－県債)－(歳出－公債費)



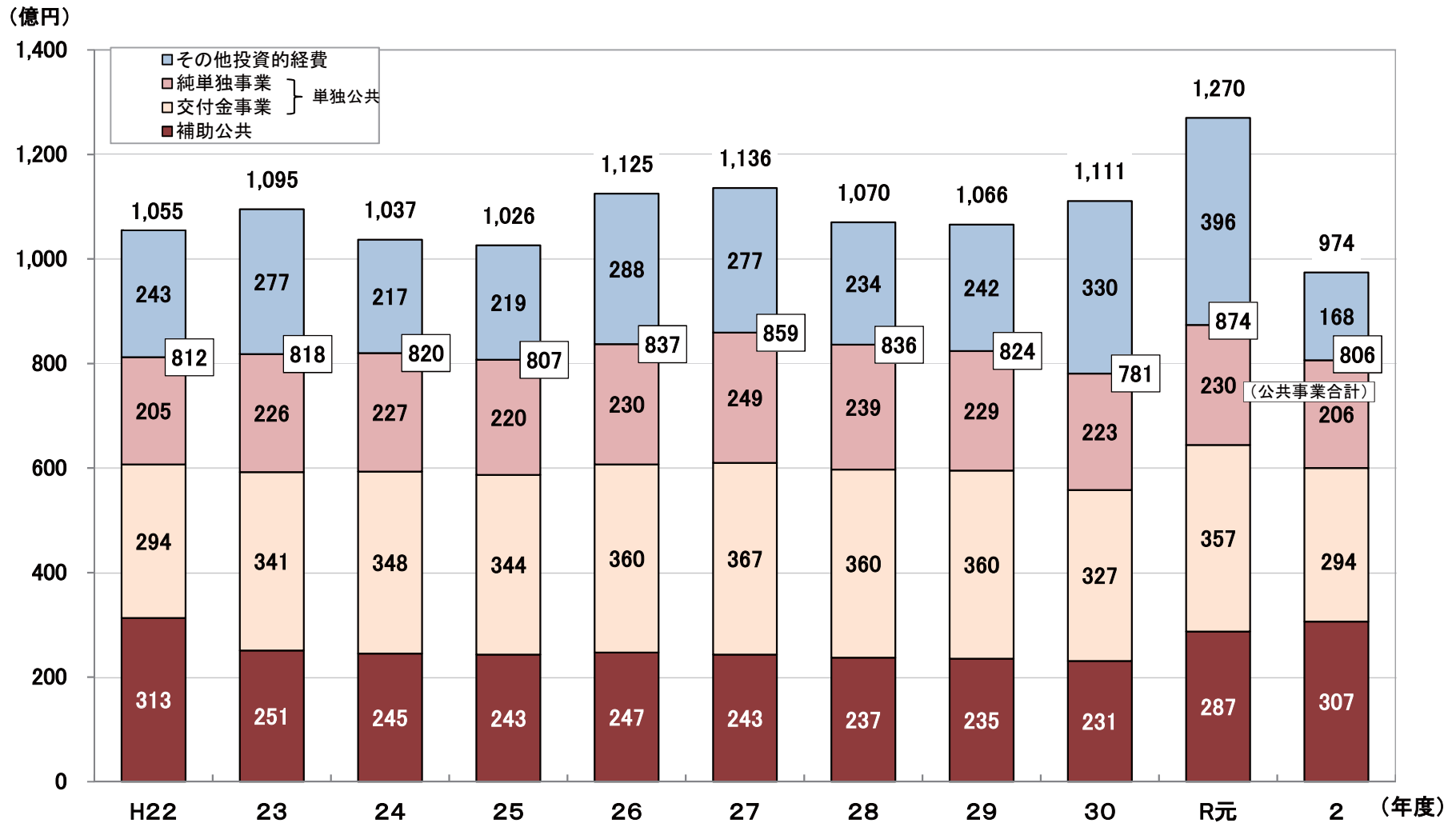
社会保障関係費の推移

- ・少子高齢化の進展、幼児教育無償化などの影響により、社会保障関係の支出が大きく増。
- ・10年前の平成22年度と比べて、約1.5倍の高い水準。



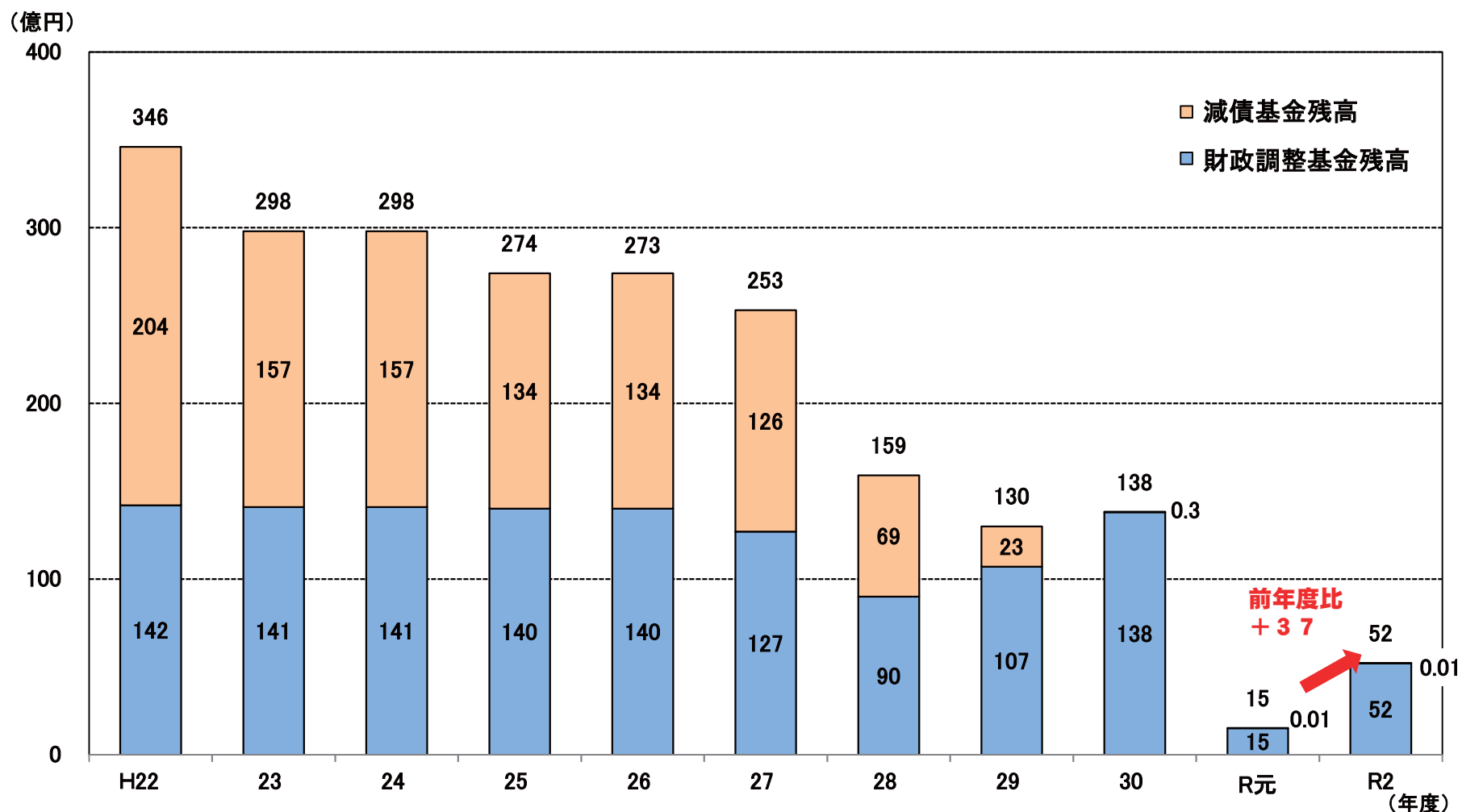
公共事業費・投資的経費の推移

- ・コンベンション施設整備の終了等により、投資的経費は大きく減少。
- ・公共事業費は抑制しながらも、防災・減災対策については前年並みの予算を確保。



積立基金の状況

・事業見直しや地方交付税等の歳入増等により、当初予算編成後の残高は前年度を上回る52億円を確保。



※H30年度までは年度末残高(決算額)、R元以降は当初予算編成後の年度末残高見込み